

■コメント

1. RSウイルス感染症

定点当たり報告数は1.71人と、前週の0.50人から大きく増加しました。例年冬期に流行していましたが、ここ数年は夏から秋にかけて増加傾向がみられており、今後の動向に注意が必要です。

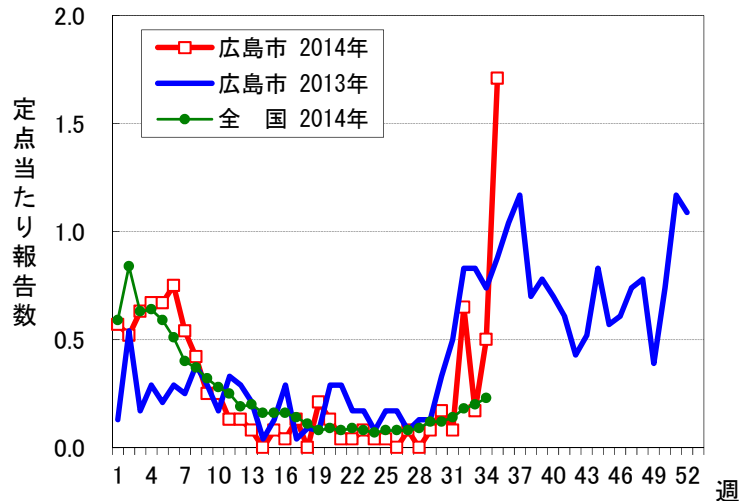
なお、患者の年齢は1歳以下の乳児の占める割合が高くなっています。(次頁参照)

2. 腸管出血性大腸菌感染症

1件の報告があり、今年の累計は5件となりました。

例年、気温が高い時期に多発する傾向にあります。予防のため、食品は十分加熱し、手洗いの励行を心がけましょう。

RSウイルス感染症の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.19		小児科	流行性耳下腺炎	8	0.33	0.48	↓
	咽頭結膜熱	9	0.38	0.49		小児科	RSウイルス感染症	41	1.71	0.34	↑
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	21	0.88	0.49	↑	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	88	3.67	2.98	↔	眼科	流行性角結膜炎	14	1.75	0.70	↔
	水痘	13	0.54	0.53	↔	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.06	
	手足口病	16	0.67	1.57	↑	基幹	無菌性髄膜炎	-	-	0.14	
	伝染性紅斑	-	-	0.14		基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.31	
	突発性発しん	11	0.46	0.48		基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	百日咳	-	-	0.09		基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	35	1.46	0.95	↔						

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	117	男性(10歳代)・1人、男性(80歳代)・1人、女性(80歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	5	女性(20歳代)・O157

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

		インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)感染性胃腸炎
報告数	広島市	第31週	1	6	34	77	22	8	-	13	-	123	22	2	-	23	-	-	-	-
		第32週	-	7	28	76	16	9	-	9	-	57	20	15	-	18	-	1	1	-
		第33週	1	4	10	53	10	12	-	6	-	27	14	4	-	9	-	-	-	-
		第34週	-	11	7	75	19	8	-	20	-	34	18	12	-	15	-	1	1	-
		第35週	-	9	21	88	13	16	-	11	-	35	8	41	-	14	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第31週	0.03	0.25	1.42	3.21	0.92	0.33	-	0.54	-	5.13	0.92	0.08	-	2.88	-	-	-	-
		第32週	-	0.30	1.22	3.30	0.70	0.39	-	0.39	-	2.48	0.87	0.65	-	2.25	-	0.14	0.14	-
		第33週	0.03	0.17	0.42	2.21	0.42	0.50	-	0.25	-	1.13	0.58	0.17	-	1.13	-	-	-	-
		第34週	-	0.46	0.29	3.13	0.79	0.33	-	0.83	-	1.42	0.75	0.50	-	1.88	-	0.14	0.14	-
		第35週	-	0.38	0.88	3.67	0.54	0.67	-	0.46	-	1.46	0.33	1.71	-	1.75	-	-	-	-
	全国	第33週	0.02	0.40	0.62	2.43	0.49	0.77	0.10	0.46	0.01	2.43	0.27	0.20	0.01	0.48	0.01	0.04	0.25	0.01
		第34週	0.02	0.46	0.78	3.22	0.56	0.86	0.20	0.63	0.02	2.25	0.33	0.23	0.02	0.89	0.02	0.04	0.22	0.01

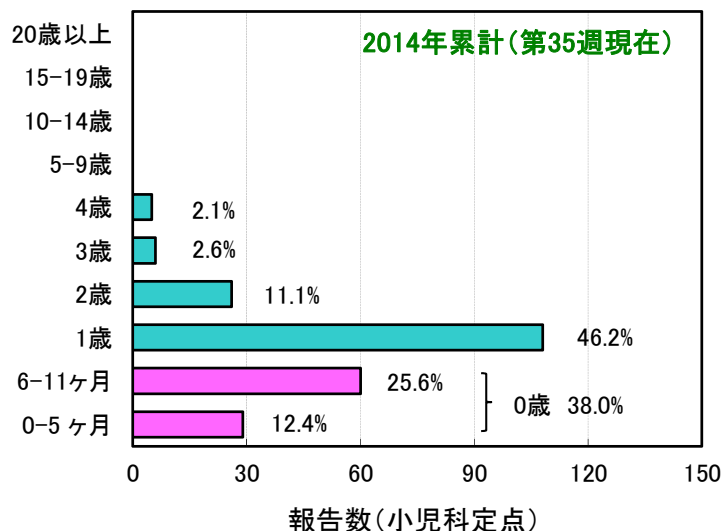
■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
その他の消化器疾患	腹痛 腸重積	2	男	2014/07/23	糞便 尿	アデノウイルス1型
その他の消化器疾患	発熱	3	女	2014/07/26	糞便	アデノウイルス2型
その他の神経系疾患	意識障害	8	女	2014/07/13	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス7型
その他の発疹性疾患	発熱(38.9) 発疹	1	女	2014/07/10	咽頭拭い液	パレコウイルス6型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市におけるRSウイルス感染症の年齢階層別報告数 (2014年累計)



RSウイルス感染症は、その名の示すとおり、RSウイルス (Respiratory Syncytial Virus) に よって引き起こされる「かぜ」の一つです。

潜伏期間は2~8日で、症状は発熱、鼻汁などの鼻かぜのような症状ですが、年齢が低いほど重症化しやすく肺炎や気管支炎を引き起こすことがあるため、乳幼児は特に注意しなければならない病気です。

広島市における今年第35週現在の患者の年齢はすべて4歳以下で、1歳代が46.2%と最も多く、次いで0歳代が38.0%となっています。

感染予防のため、手洗い・うがいの励行を心がけるとともに、喘息のようなせきや喘鳴(ゼーゼーという苦しそうな音)がある場合は、速やかに医療機関を受診して治療を受けることをお勧めします。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2014年第35週(8月25日~8月31日)